

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2007年4月)

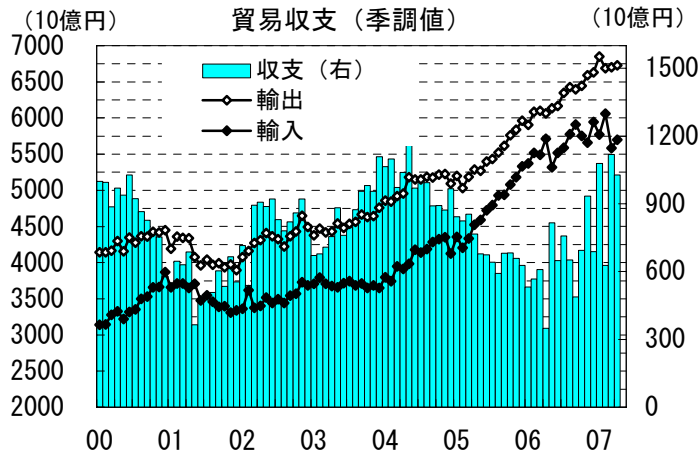
発表日 2007年5月24日(木)

～米国向け輸出は弱め、その他の地域は堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
06年4月	350	6062	5712	611
5月	816	6133	5317	356
6月	649	6167	5518	800
7月	758	6347	5589	851
8月	652	6426	5774	192
9月	488	6397	5908	1007
10月	694	6447	5752	613
11月	934	6594	5660	908
12月	689	6632	5943	1110
07年1月	1079	6851	5772	-3
2月	627	6688	6061	975
3月	1119	6703	5584	1630
4月	1028	6728	5700	927

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
06年4月	11.3	4.7	6.3	8.7	1.8	6.6	21.1	15.5	4.8	▲ 15.0	▲ 3.6	11.3
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	11.4	15.2	18.5	13.6	4.4	▲ 5.5	▲ 3.9	9.2
6月	14.5	5.3	8.7	2.5	12.1	7.8	18.4	13.4	4.4	▲ 0.3	▲ 3.0	9.7
7月	14.2	7.9	5.8	8.9	3.6	6.2	17.0	12.3	4.1	▲ 6.2	▲ 3.3	11.1
8月	17.5	5.0	12.0	13.0	7.7	10.5	16.2	13.6	2.4	▲ 6.4	▲ 4.0	4.7
9月	15.2	7.3	7.3	7.5	8.2	13.1	16.9	13.9	2.6	▲ 2.7	▲ 2.0	7.7
10月	11.6	9.7	1.7	10.3	▲ 1.3	6.7	17.5	8.8	8.0	▲ 19.7	▲ 4.3	12.3
11月	12.1	7.8	4.0	7.4	▲ 3.2	6.1	7.6	5.0	2.4	▲ 5.3	▲ 6.6	6.0
12月	9.8	5.3	4.2	6.7	▲ 2.6	8.4	7.8	3.2	4.4	▲ 10.6	▲ 8.7	7.2
07年1月	19.0	9.4	8.8	0.7	▲ 4.8	23.0	10.3	10.4	▲ 0.1	▲ 15.8	▲ 0.5	0.2
2月	9.7	11.1	▲ 1.3	▲ 1.7	▲ 0.4	▲ 2.5	10.1	2.2	▲ 7.9	▲ 3.8	▲ 4.3	16.5
3月	10.3	9.6	0.6	▲ 4.2	▲ 3.7	7.4	0.1	7.3	▲ 6.7	▲ 8.8	0.6	▲ 13.0
4月	8.3	7.9	0.4	▲ 12.8	▲ 6.6	7.1	3.5	10.2	▲ 6.1	▲ 21.8	▲ 0.2	▲ 4.7

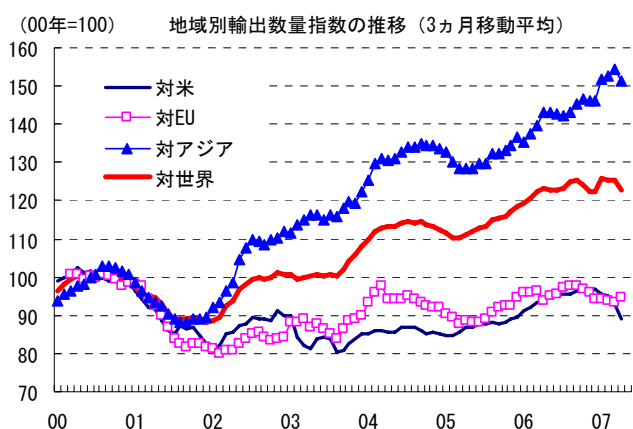
## ○4月の貿易黒字額は前年比+51.8%

4月の貿易収支は9267億円(原数値)、前年比+51.8%と6ヶ月連続で増加した。輸出金額は自動車や鉄鋼が増加し、前年比+8.3%(前月同+10.3%)と伸びは鈍化したものの前年を上回った。一方、輸入金額は前年比+3.5%(前月同+0.1%)と前月からは伸びが拡大したが、2月までと比較すると低めの伸びにとどまった。輸入は、原油価格が前年対比で下落している影響により、原粗油が押し下げに寄与(前年比▲16.6%、寄与度▲3.2%)していることもあって伸びは鈍化傾向にある。輸出も伸びは鈍化傾向にあるが、輸入の減速ペースの方が大きいことから貿易黒字額は増加基調の推移となった。

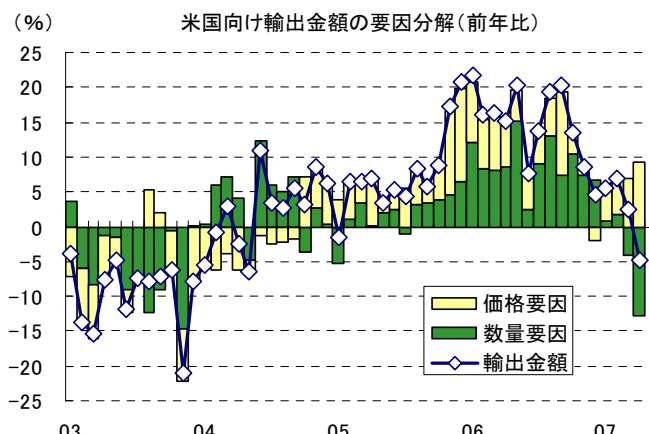
## ○アジア向けEU向けは堅調な一方、米国向けが自動車輸出の減少により弱め

数量ベースの輸出は前年比+0.4%(前月同+0.6%)と小幅増加となった。米国向け(同▲12.8%←前月同▲4.2%)が大幅な減少となったが、アジア向け(同+7.1%←前月同+7.4%)は前月並みの伸びとなり、

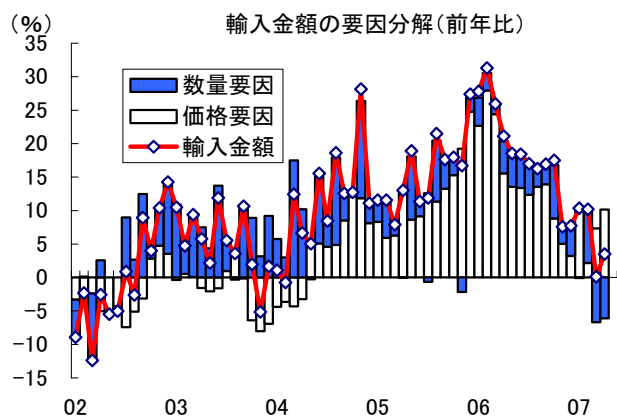
EU向け（同+6.6%←前月同▲3.7%）はプラスに転じた。米国向けの減速が鮮明になっていることから輸出は減速傾向となっているものの、アジア向け、EU向けが堅調なため全体としては底堅い推移と判断する。地域別にみれば、アジア向け輸出については、鉄鋼や半導体等電子部品が引き続き増加しており堅調さが持続している。また、EU向けについては昨年末以降、数量ベースでは弱めの動きとなっていたが4月は持ち直した。EU景気は好調なこと、為替が円安傾向となっていることなど輸出を取り巻く環境は悪くない。今後もEU向け輸出は底堅く推移することが見込まれる。一方、米国向けの輸出数量は2ヶ月連続で減少し、マイナス幅も大きく拡大した。輸出価格の伸びが拡大していることから金額で見れば数量ほどには落ち込んでいないものの弱めである。主因はこれまで同地域向けの輸出を牽引してきた自動車輸出の減少である。年明け以降伸びの鈍化傾向が続いていたが、4月は前年比▲13.3%と大きく減少した。米国経済の減速の影響がでていたり、昨年水準が高いことなどが影響しているとみられるが、減少幅は大きめである。



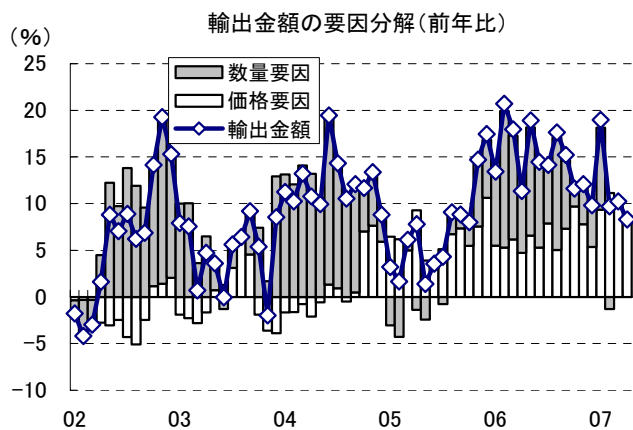
(出所) 財務省「貿易統計」



(出所) 財務省「貿易統計」



(出所) 財務省「貿易統計」

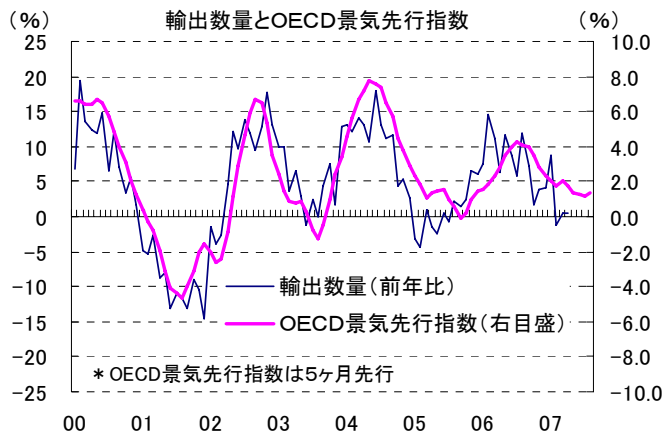


(出所) 財務省「貿易統計」

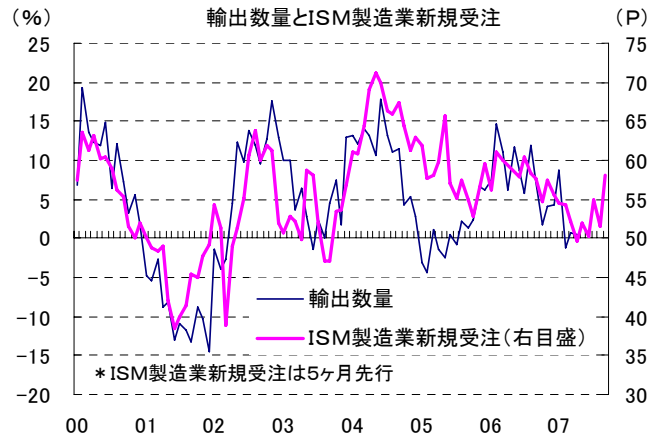
### ○当面輸出は減速傾向が続くが、07年後半以降は増勢が強まる見込み

アジア、EU、その他地域向けの輸出が堅調な一方、米国向け輸出の減速が顕著であり、当面輸出の減速傾向は続く可能性が高いとみられる。もっとも、輸出が全体として失速していくような状況は避けられると考えている。OECD景気先行指数では下げ止まってきていること、米国経済についてもISM製造業新規受注も4月は持ち直すなど輸出の先行指標のなかにはいくつか明るい兆しも見られる。サブプライムローン問題が住宅部門の調整を長期化させ、個人消費へ大きく悪影響が及ぶリスクには注意が必要だが、米国はソフトランディングに向かう可能性が高いとみる。輸出は、年前半は減速傾向が続くとみられるものの、年後半以降には米国景気の復調にあわせて増勢が強まると考えられる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所) 財務省「貿易統計」、OECD



(出所) 財務省「貿易統計」、ISM

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。